



# 広報

# ながつえ

49年11月号

第131号

発行所

編集発行人

大分県・日田

中津江村

齊藤 隆一

杉の名木老松様は  
伊勢か高野か老松様か  
空を貫くかすみにみえて

と宮園神社の杉はもちつき祭り  
にもうたわれているが、日田杉  
の元祖の名にふさわしく堂々と  
そびえたっている。

長い風雪に耐えて偉大な巨木  
に成長した杉は古い数々の歴史  
を我々にやさしく語りかけてく  
れる。

森厳な境内は、三百年の年輪  
と共に神秘的なたたずまいをみ  
せ歴史の重さをひしひしと感じ  
させる。

杉の巨木よ、未来に向ってい  
つまでも大きくのび現在の歴史  
の一ページを刻んでくれ！

## 人口の動態

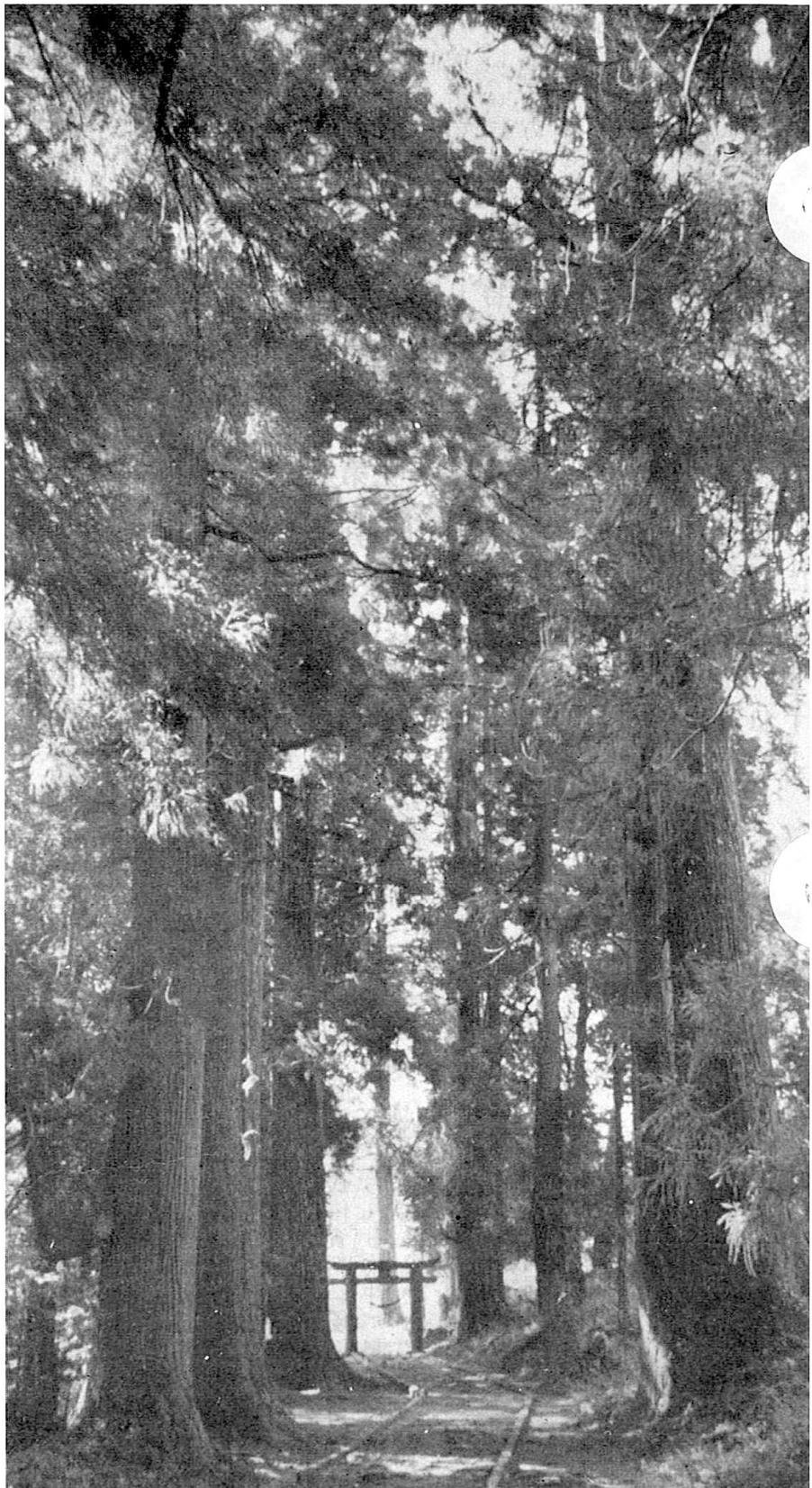
昭和49年10月30日現在

人口 2,502人

男 1,181人

女 1,321人

世帯数 617戸





文化財調査で古墳と思われる

十一月三日は文化の日として昭和二十三年に制定され、その後、文化の向上のため各地でいろいろの行事が催されています。本村でも文化祭として全村あげて文化行事で過ごしています。

また、一日から七日までは文化財保護強調週間とされ、県下各地で文化財に対する認識を深め、文化財の保護思想を高める種々の行事が催されています。

本村では四月に文化財保護条例を制定し、文化調査委員を六名委嘱して調査活動を進めています。

歴史的背景の豊かな本村で

# 守ろう文化財 —文化財の保護について—

は各地にいろいろな遺跡や

遺物、伝承または民俗資料などが多く残されており、これらを大切に保護し、子孫まで残さなければなりません。

## 文化財を残すには！

そのためにはいろいろな資料の散逸を防ぎ、また今度の調査で新しく発見された多くの古墳などの発掘調査、昔から伝わっている行事や口伝などを残すなど、急にその整備をはかる必要があります。

このためには、特に高令者の方にお願いしなければなりません。現在公民館の老人学級では、このようないことを学習課題として取りあげ、昔の風俗、習慣や伝説などを多くの資料を集め、昨年「中津江の文化」第一集を発行することができました。



第1集「中津江の文化」

## 文化財とは？

一口に文化財といつても一般的には歴史上の遺跡や建

造物、美術工芸品などを考えがちですが、このほか伝統的な芸能、工芸技術や日常生活で使用していた衣食住、慣習や用具などが含まれます。

しかし、これらは歴史上、芸術上何らかの文化的価値があるものでなければなりません。

文化財をいろいろな種類別に分けると次のようになります。

- ☆ 有形文化財 建造物、絵画などで歴史上芸術上価値の高いもの
- ☆ 無形文化財 芸術、工芸技術など

- ☆ 民俗資料 風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具その他
- ☆ 記念物 古墳、城跡、庭園その他

以上、四つが文化財保護



村内唯一の県指定文化財伝来寺庭園

法の対象となっていますが記念物のなかにあるよう自然の名勝地や動物、植物地質鉱物のようなものも文化財のなかで保護の対象に含まれているということです。

文化財は人によつて創り出されたものばかりではなく、人間生活が文化的になされることは自然環境も大事な保護の対象になるということです。

このほか保護法では埋蔵文化財についても規定されています。これは地下や水底などに埋蔵されている文化財のことで、発掘などによって地上に出ると、それぞれ有形文化財（考古資料）民俗資料（風俗慣習に用いられる物件）記念物（遺跡）などに分けられています。

## 村指定文化財第1.2号決定

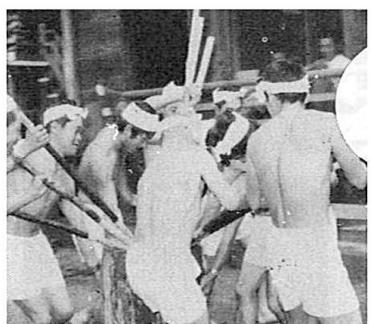
新麦祭（もちつき祭り）  
宮園神社 杉並木

村文化財として指定された宮園神社のもちつき祭りと杉並木の指定内容は次のとおりです。

## ①新麦祭（も

国と津江の境にある三国山のふもとに鬼戸ヶ巖というところがありそこに賊が住みついて、その勢いが強く強暴で付近の村々を荒し、その被害は肥後一円はもとより、筑後、豊後の諸国まで及んだ。付近の人たちが征伐にいくけれども勢力が強くて討つことができないそこでその討

伐を西国受領たる大友氏に訴え出た。大友能直は討伐を長谷部宗俊に命じた。宗俊は宮園神社に戦勝の祈願をして、一族郎党や付近の豪族を引きつれて討伐に向つた。激しい戦闘の末、賊の大将羽雲を討ちとり、めでたくがい旋することができた。この戦勝はひとえに老松大明神の御加護によるものと神恩に報いるため、戦闘の状況を模してお祭りをした。これが今に残るものとしつき祭りである。この時が天福元年六月十五日で新麦の収穫時期であつたので、麦もちをつくことになつたこれより現在まで七四一年の歴史がある。



祭りの当番部落が四つに編成されていて毎年順番に受けもち、氏子は二メートル位の桺の木のきねを準備し、神前でおはらいをうけきねの先端を両手で持ち二列になつて近くの塩井川に体やきねを清めに行く。その後また二列になつて神前

②津江神社（宮園神社）

津江神社の参道の両側や  
境内の周囲に生育している  
杉は、全国的に有名な日田  
杉の元祖といわれ、特に日  
田杉の産地であるこの津江  
地方において挿木技術によ  
る植林が昔から導入されて

ある

樹勢はまだ衰えず旺盛で

三十六・平均樹高  
は四十一、一六メートルである。

樹周（地上一、二層のところ）

杉五本、ヤブクグリ杉一本の三十本を指定した。平均

十五本、アヤ杉九本

ワラ桧二本が周囲に立ち並んで、るが、この内

て指定の予定である。

例により特別保護樹林として指定する。

になく貴重な存在価値がある。大分県でも環境緑化条

次々に全部折つてしまふ。  
参拝者はきねの破片を魔除  
けに家に持ち帰る。つきあ  
げられた麦もちは型箱で形  
を整え神前にすえたあと、  
部落の世話人が持ち帰り部  
落内に分けてやる。  
以上が祭りの概略で、古



その後仁安三年（一八〇六年）前八月現在地の宮園部落に宮社を移転し、何度かの改築が行なわれ、最近では昭和三十二、三十三年にかけて社殿を改築し、一千八年祭が催され、その時に杉八本を切りその経費にあてた。津江神社の古い歴史とともに今なお、天高くそそりたつ杉の巨木は三〇〇年の歴史を私たちに物語えてくれる貴重な財産である。

# 第3回 文化祭

## なごやかに体育大会 にぎやかな展示場



追

# 表彰式は昭和三十九年老 人クラブ結成以来、村連合 て、その育成と発展に寄与 化 祭 体育大会 な展示場

第三回中津江村文化祭は十一月三日、文化の日に村民約千人の参加のもとに盛大に開催されました。この日、真青に晴れあがつた秋空のもと九時より各展示、追悼式、功労者表彰大会と各行事がおこなわれ参加者みなさんのご協力により、無事終了しました。

川良さんら  
表 彰



表彰者を代表し挨拶する川良さん

され本年四月にそれぞれを  
辞任し、その功績により川  
良平六さんを表彰、ほか川  
辺の梶原巖さん、鯛生の斎  
藤彦一さん、丸蔵の高木元  
雄さん、吉原の清原正行さ  
ん等を表彰。また丸蔵老人  
クラブとして丸蔵小学校の  
還境美化整備に自発的に尽  
力されたことにより感謝状  
が送られました。

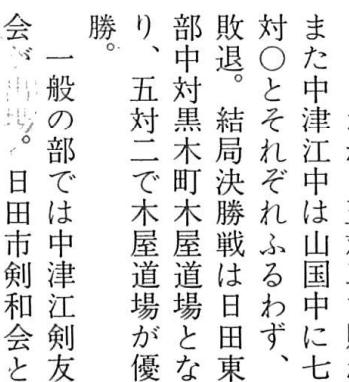


青年教室發表風景



おごそかにおこなわれました。  
にぎやか各展示場  
**体育大会**  
それぞれの出品、展示物  
は一般参観人の目を引き、  
特にはじめておこなつた婦  
人の不用品交換は好評で室

にぎやか各展示場  
体育大会



一般の部では中津江剣友会と日田市剣和会と

中学校の部で中津江から  
はAパートに鰐生中、Bパ  
ートに中津江中が出場し、  
鰐生中は一回戦、不戦勝で  
残り次に光岡剣友会と対戦  
しましたが、五対二で敗れ

十月二十七日 中津江中  
学校において第十四回鰐生  
剣道大会がおこなわれまし  
た。今年は一般の部十三チ  
ーム、中学校の部十九チー  
ムが参加、九時半開会式、  
十時に試合が開始されまし

対戦し三対二で二回戦につづいて黒木町剣友会Aと対戦しましたが五対〇で敗れました。一般決勝戦は菊池市剣友会Aと柳川武道館で争われ菊池市剣友会Aが優勝。

試合終了後、中津江樹体協、西日本新聞社から記念品、賞状、メダル等がおくられ大会の幕をとじました



試合終了後、中津江樹体協、西日本新聞社から記念品、賞状、メダル等がおくられ、大会の幕をとじました。

内はちきれんばかりのにぎやかさでした。

## 十四回鯛生劍道大会

一般・菊池市剣友会 A

優勝

で、熱戦の末、鯛生チーム  
が優勝、最後に婦人ら百人  
による民踊、中津江小唄で  
幕をとじ、文化祭全日程を  
終了しました。

大分県のしいたけは質、量ともに全国一の主産地である。大分のしいたけ栽培の起源は明らかではないが約二百～三百年前からはじまつたものといわれ、佐伯地方が発祥地だと記録されている。

しいたけ栽培が急増したのは昭和十七年からとり入れられた“たねごま”による栽培が普及されてからでいわゆる「しいたけ人培養種駒」の誕生である。従来のしいたけ栽培にとつて一大革命であった。これによつてしいたけは人工栽培による生産が急増した。

大分県のしいたけは昭和四十七年度で全国生産の三十分で生産額六十九億をみている。生産者も約一万戸（販売を目的としているもの）を数え、生産者別みると百キロ未満三十九%、百～三百キロ三十四%、三百キロ以上二十七%となつていて。最近は広葉樹の減少により各地方とも原木不足をきたし、しいたけ栽培者にとって深刻な問題である。原木の年間使用量は約三万三千立方米（七十六

万五千四百石）を越え、そのうち自個所有分は約七%であり、九十三%は栽培者が他方から買入しなければならないことになる。原木は主としてイチイ、ハサコナラ、シイ、クリ等が使用されているが樹種別にみるとイチイ七十九%、ナラ十八%、その他三%となつてゐる。

しいたけの価格ほど変動のはげしいものはない。毎年相場が異なる。それだけ流通販売がむずかしいものだといわれている。しいたけの需要は伸び、海外輸出の重要な商品である。中国料理にはきのこ、竹の子は絶対に欠かせないもので、高血圧、ガンの予防食としてとくに高く評価されている。

栽培者の最大の悩みは原木不足による原木価格の上昇である。村のしいたけ生産も年々増しており、技術的にも良質なものが多くなつており、年間生産量は二十九三十トン程度でないかと推測している。今後の栽培は原木不足と価格上昇にによる原価高騰に対する資金をいかに調整していくか、生産販売経営の合理化こそ最大の課題となるのではないか。

乾しいたけの全国上位は

人工栽培が進むにつれて種駒の種類も多くなり、各メーカーによつてそれぞれ特質のある種駒が出廻つてゐるが、どれも一長一短があるといわれる。種類別みると森式（六十二・九%）、明治式（十六・四%）、菌興式（十五%）、その他（五・七%）となつてゐる。（産業課）

## しいたけのはなし

### 『特産物シリーズ』 その3

大分（二十九・四%）、宮崎（十七・一%）、順に愛知県が上位をしめているのが注目される。

しいたけの価格ほど変動のはげしいものはない。毎年相場が異なる。それだけ流通販売がむずかしいものだといわれている。しいたけの需要は伸び、海外輸出の重要な商品である。中国料理にはきのこ、竹の子は絶対に欠かせないもので、高血圧、ガンの予防食としてとくに高く評価されている。

栽培者の最大の悩みは原木不足による原木価格の上昇である。村のしいたけ生産も年々増しており、技術的にも良質なものが多くなつており、年間生産量は二十九三十トン程度でないかと推測している。今後の栽培は原木不足と価格上昇による原価高騰に対する資金をいかに調整していくか、生産販売経営の合理化こそ最大の課題となるのではないか。

## ボイント (3)

私たちにはひとりで生きていいくことはできません。多くの人々と物によつて生きているのです。

### 電気

つのスイッチを切つていいますか？

。見ていないテレビは、スイッチを切り、こたつは保温をよくする工夫をしています。

※冷蔵庫の放熱部分がほこりで汚れていませんか？

。火を使うそばの風通しの悪いところに置かれた冷蔵庫は電気をムダに使います。

。照明器具はこまめに掃除し、蛍光灯は一年半ぐらいでとりかえましょう。

現在では電気の八〇%は火力発電でつくられ、燃料の石油は、ほとんど輸入されています。この貴重な資源を大切に使うためにも、電気のムダを使いをさけましょう。

。誰もいない部屋、台所トイレ、風呂場などの電灯を消し忘れてはいませんか。

※電気のかさや、電球にほこりがたまつてはいませんか？

。照明器具はこまめに掃除し、蛍光灯は一年半ぐらいでとりかえましょう。

※見ていないテレビ、だれもあたつていなさいをさけましょう。

